

# しらさぎ

第220号

令和6年3月15日 発行

一般社団法人 鶴岡地区医師会

鶴岡市立湯田川温泉  
リハビリテーション病院  
広報委員会

山形県鶴岡市湯田川字中田35-10

TEL 0235-38-5151

FAX 0235-38-5152

<http://tsuruoka-med.jp/yutagawa/>

E-mail yutagawa@orion.ocn.ne.jp

鶴岡市立湯田川温泉  
リハビリテーション病院の  
基本理念

私たちは、患者・利用者の皆様の尊厳と自己決定権を尊重し、  
心の通った医療、介護とリハビリテーションを提供します。



デイケアを利用されている  
水野歳子さんの作品です。

当院正面玄関ホールに飾っている  
お雛様です。



当院は、(公財)日本医療機能評価機構の認定を受けています。

# 令和5年度 入院患者満足度調査結果報告

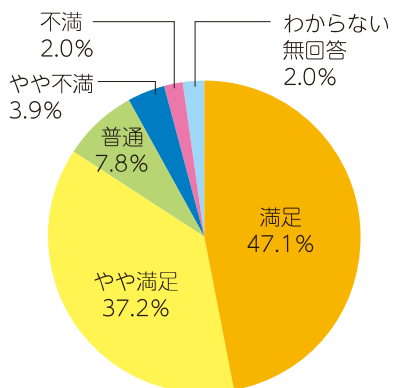
当院では、入院患者の皆さんの医療サービスに対する満足度を把握し、よりよいサービス提供を目的として、毎年「入院患者満足度調査」を実施しています。今年度実施しました調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

## 【実施概要 および 評価方法】

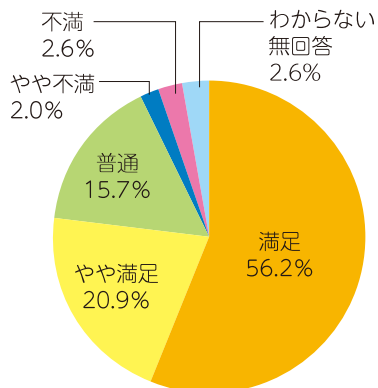
- 調査対象：調査時点で当院入院期間が3週間以上の患者さん全員(69名)
- 調査方法：アンケート用紙を配付し、返信用封筒を添付。また玄関に回収箱を設置し回収。無記名回答方式で実施。
- 回収数：51名(回収率:74%)
- 回答割合：ご本人 18名(35%) ご家族 29名(57%) 未記入 4名(8%)
- 評価方法：「満足、やや満足、普通、やや不満、不満、わからない・無回答」の各項目の合計を回収数で割った数値で評価しています。

★病院全体についての評価、また職種ごとに患者さんに対する態度や言葉遣い、相談・質問のしやすさ、説明の仕方などについてお聞きしました。

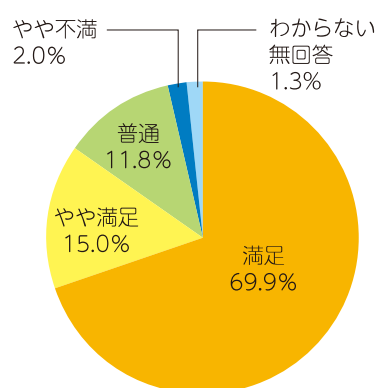
### ★病院全体について



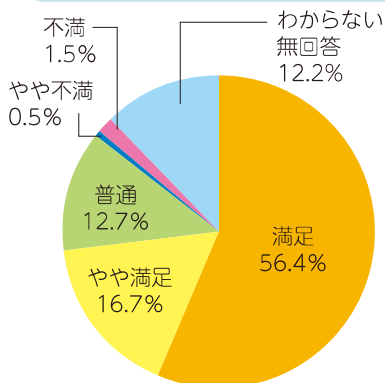
### ★医師について



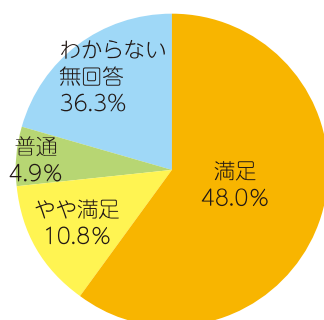
### ★看護、介護職員について



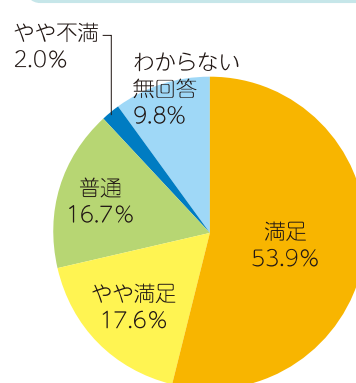
### ★リハビリスタッフについて



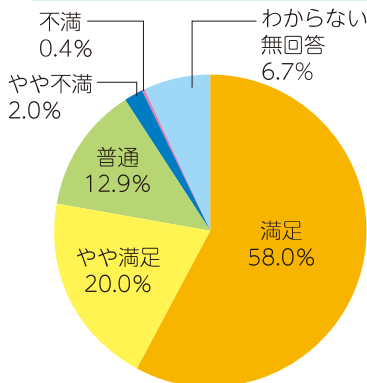
### ★他の専門職について



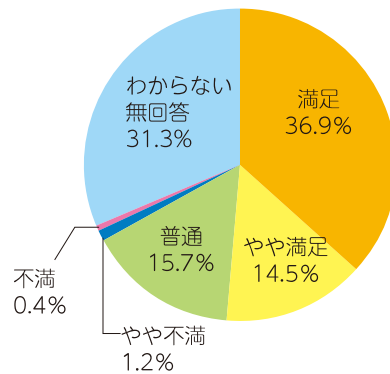
### ★事務職員について



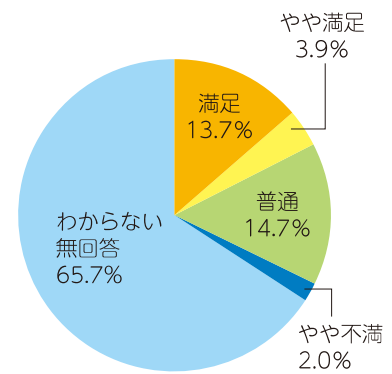
### ★入院時の電話連絡、入院中の相談・退院支援について



### ★生活環境、駐車場について



### ★売店について



回答総数 459 件のうち、各項目で「満足」「やや満足」の評価をいただきましたが、「やや不満」24 件、「不満」10 件の回答もございました。

いただいたご意見・要望については全職員で共有し、対応策の検討および改善に取り組み、皆様により満足いただける病院となるよう、さらなる努力を重ねてまいります。

アンケート調査にご協力いただきました患者さん・ご家族の皆さん、ありがとうございました。

ご意見・要望に対する対応策について、一部紹介させていただきます。

### (看護師・介護職員について)

◎忙しい時にも声をかけていただきたかった。担当の看護師さんに1日1回は”どうですか”と声をかけてもらいたい。

- ➡ 日常業務に追われ、あいさつや声かけが疎かになってしまっていたかもしれません。忙しい時こそ、職員一人一人が患者さんの目線に立った対応を心がけ、特に担当職員は患者さんの状態を把握・意識し、声をかけるよう努めてまいります。

### (受付について)

◎受付窓口が混んでいて、待つ時間が長くなるがあった。

- ➡ 窓口の後ろでお待ちの来院者がいましたら、受付正面右側の別窓口に誘導したり、職員がロビーに出て対応するなど、できるだけお待たせしないよう工夫をしながら対応しております。状況によって待ち時間が発生する場合もあるかと思いますが、お待ちの方を見過ごさないよう配慮し、待ち時間の短縮を心がけてまいります。

### (コロナウイルス感染対応について)

◎直接面会の制限をもう少し緩くしてほしい。(意見多数)

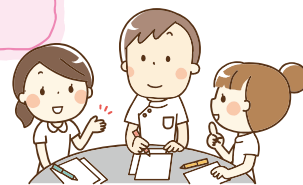
- ➡ 現在、直接面会は予約制で実施しておりますが、面会予約が混雑し、予約の取りづらい状況が見受けられ、ご家族の皆様には大変ご不便をおかけしております。

直接面会の制限緩和について、院内の新型コロナウイルス感染対策本部会議で検討を行いました。現在も新型コロナやインフルエンザの感染が続いており、重症化リスクが高い高齢者が多い当院では、患者さんを感染から守るため、もうしばらく現在の制限を継続することとなりました。ご理解の程、よろしくお願いいたします。

## 院内研究発表会

当院では毎年、職員が日常業務の中で調査・研究した成果を報告する院内研修発表会を開催しています。

今年度は 2 月 21 日に開催し、発表された 6 題をご紹介します。



### 膀胱留置カテーテルの抜去成功率とADL自立度との関係要因の分析

第 1 病棟 看護部 堀 正浩、齋藤 朋  
脳神経外科 武田 憲夫

- 【はじめに】** 膀胱留置カテーテルを抜去させることは、リハビリテーション病院として、患者の QOL 向上のため重要な目的の一つです。この度、抜去率向上の為、入院生活やリハビリテーションの方法、内容を検討する事を目的に、分析を行ったので報告します。
- 【方 法】** 分析は、年齢、性別、診断名、入退院時 BI、入院時・抜去時 FIM 運動、入院時・抜去時 FIM 認知、HDS-R などを検定項目とし、抜去可(66 例)、不可(22 例)の 2 群に分け、ステップワイズ法で、多変量ロジスティック解析を行い、抜去に関して有効であった因子を算出しました。
- 【結 果】** オッズ比が 1 以上で抜去に有意と判定 ( $p < 0.05$ ) された項目は、抜去時 BI 歩行、抜去時運動 FIM 歩行、入院時 HDS-R でした。
- 【結 論】** 有効な項目は、運動項目の内、歩行関係が圧倒的に優位でオッズ比も高く、歩行関連の向上がカテーテル抜去に大きく関連していると思われました。

### フレイル改善策を早期に取り入れることにより 栄養改善につなげることは可能か

第 1 病棟 富樫 智、佐藤 啓子

昨年度の研究では、対象人数が少なかったためフレイル改善に効果があったか疑問が残る結果でしたので、今回は対象患者を 80 歳以上、かつ Alb が 3.4g/dl のフレイル体操をした患者 19 名、と同条件で昨年のフレイル体操をしなかった患者 18 名を比較しました。

入院時と退院時の差の平均値を t 検定で比較検討、有意性の有無を算定し、フレイル体操の意義を検討しました。結果、Alb 値、BI、運動 FIM に有意性はありませんでした。認知 FIM に有意な差を認めました。認知 FIM の何らかの項目が、フレイル体操の意義を示している可能性が示唆されました。認知 FIM のどの項目に効果があったかは、1 つ 1 つ有意性を検証していく必要があり課題が残りましたが、今後もフレイル体操を継続していき、認知症の働きかけの一助としていきたいです。

### 地域包括ケア病床の在宅復帰に向けて ～退院支援への取り組み～

第 2 病棟 渡会 裕利香、池田 寿、齋藤 涼子

地域包括ケア病床における在宅復帰率の向上を目指し、昨年度までの研究で作成した「退院支援スクリーニングシート」「地域包括ケア病床についてのパンフレット」を活用し、新たに「運動 FIM 比較表」と「地域包括入院スケジュール表」を作成し退院支援が円滑に行えるよう取り組みました。

入院時より多職種で患者様の退院を見据えた必要援助の検討を行い目標値として数値化し取り組み、定期的に現状評価と再検討・家族への情報提供をすることで現状把握が進み、結果在宅復帰率の向上に繋げることができました。

今後も、患者様とご家族様が地域包括ケア病床の理解ができ、患者様を中心にスタッフ全員が統一した退院支援を行えるよう活用していきたいと思えます。

## 当院の回復期病棟におけるアセスメントシートの見直しと多職種連携による効果

第3病棟 河崎 海音、魚住 千草

当院ではH23年度から転倒転落アセスメントスコアシート（以下アセスメントシート）を使用していますが、アセスメントシートを活用・情報共有する場面がなく、危険リスク把握が看護師中心となっていました。そこで当院の回復期病棟としての特徴を踏まえ、評価基準を具体的に示した新アセスメントシートを作成し、従来の評価が適切か、また多職種で取り組むことで転倒転落リスクの把握が転倒予防に有効活用できるのか検証しました。本研究からアセスメントシートの認知度・活用度が低く、従来の転倒対策は個別で対応していたことが明らかになりました。今後はアセスメントシートの活用意義を周知し、評価後の具体的な転倒対策案を提示することが重要だと考えます。また期間や対象の範囲を広げて分析し、更なる転倒予防ができる取り組みを行っていきたいです。

## 当院職員の腰痛実態調査

リハビリテーション課 土岐 俊介、佐藤 竜乃介、工藤 響介

厚生労働省の統計で腰痛有訴者は男女共に1位であり、日本理学療法士協会では所属施設内で理学療法士が腰痛対策に貢献することを推進しています。今回、当院職員へのアンケートにて腰痛の実態を調査し、腰痛の原因となる危険因子を把握することで腰痛予防の一助になることを期待し本研究を実施しました。

集計の結果、看護・介護職員の腰痛有訴者が有意に多い結果となりました。オムツ交換や移乗動作など身体的負担が大きい業務に従事することが多く、更に夜勤では先述した業務が増加することが一因と考えます。また、腰痛有訴者の腰痛対策として腰痛ベルトの装着やストレッチの実施等が挙げられましたが、正しい方法でのベルト装着やストレッチが行えているか不明瞭です。

一方でリハビリ職員は他職種と比較して腰痛有訴者が少ない結果となり、身体の知識を基に負担のかかりにくい動作方法を実践できていると考えます。リハビリ職員を中心に動作方法の伝達・統一を図り、正しい腰痛予防への取り組みを検討していきたいと思います。

## 当院での脳卒中患者における歩行再獲得に影響する要因について —回復期病棟入院時の基本動作能力に着目して

リハビリテーション課 佐藤 尚哉

**【背景・目的】** 退院後の生活に重要な要素の1つとして、歩けなくなった方が再度歩けるようになることがあります。本研究では当院回復期リハビリテーション病棟に入院された脳卒中患者を対象に、入院時の運動 FIM（日常生活行為がどれだけ自分でできているか測る指標）および基本動作能力（寝返り、起立等の動作の基本となる動き）が再度歩けるようになることへどのように影響するか調査しました。

**【結果・考察】** 退院時に再度歩けるようになった方は運動 FIM20点未満では少なく、40点以上では多い結果となりましたが、20-39点では差が見られませんでした。そのため20-39点の方のみで基本動作能力の何ができる患者が多いか調査し、座位、起立、移乗ができる方で再度歩けるようになった方が多い結果となりました。今後は入院時のみでなく、必要な能力の経過（いつできるようになればよいか等）の調査ができればと考えています。

# ニューフェイス



まえ た り か  
**前田 里佳**

・第 1 病棟  
・介護員

- ①元気で明るい
- ②読書、簡単なお菓子作り
- ③スイーツ、魚
- ④お家でゆっくり過ごしています
- ⑤皆様のお名前を早く覚え、仕事にも慣れるようがんばります。  
よろしくをお願いします。

氏名 部署 職種

- ①性格
- ②趣味
- ③好きな食べ物
- ④休日の過ごし方
- ⑤抱負



## 保健衛生関係功労者山形県知事表彰を受賞

当院第 1 病棟に勤務する准看護師の佐藤啓子さん、このたび、多年にわたる保健衛生業務への功績が認められ、受賞されましたことをご報告いたします。



## 行事食のご紹介



3月1日 開院記念献立

3月3日 ひなまつり献立



## あ と が き

こんな冬は初めてです。こんなに雪がなくて…良いのでしょうか。

秋田のかまくらも 米沢の雪灯籠まつりも 蔵王の樹氷もスキーのワールドカップ in 山形もきっとこんなはずじゃなかったですね。主催者の方々はどうな思いで、空を見上げていたでしょう。

過ごしやすくてとてもありがたいです。が、今年の夏はどこまで熱くなるのでしょうか。

水不足にならないかととても心配です。

(M・Y)

